

第10回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成29年10月25日(水)
開会 13時30分
閉会 14時32分

2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員(4名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	河 野 俊 寛
〃	大 島 淳 光

4 欠席委員(3名)

教 育 委 員	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	丸 山 章 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	山 田 啓 之
	担当部長(兼)教育総務課長	加 藤 弘 行
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長(兼)学校職員課長	川 口 勝
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	吉 田 圭 史
	担当部長(兼)学校指導課長	新 村 裕 二
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	堂 岸 豊
	生涯学習部長	鳥 倉 俊 雄
	生涯学習課長	藤 木 由 里
	(兼)家庭教育振興室長	
	図書館総務課長	村 田 英 彦
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長	
	(兼)城北分館長	
	教育プラザ総括施設長	高 村 政 博
	(兼)地域教育センター所長	
	文化財保護課長	飯 田 一 哉
	明成小学校長	嶋 崎 和 良

5 案 件

議案第27号	平成30年度金沢市立小・中学校における教育課程編成・実施の基本方針(案)について	(学校指導課)
非 議案第28号	金沢市文化財保護審議会への諮問について	(文化財保護課)
報告第25号	平成30年度金沢市立工業高等学校全日制の課程第1学年入学者応募要項について	(市立工業高等学校事務局)

- 報告第26号 金沢市と国立天文台との連携協定締結について (生涯学習課)
報告第27号 第12回ジュニアかなざわ検定実施報告について (生涯学習課)
報告第28号 重要文化財の指定の答申について (文化財保護課)
その他

- (1) 平成29年度海外教育派遣研修「大連教育研修」の報告について
(2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者3名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員として河野委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第28号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第27号、報告第25号、報告第26号、報告第27号、報告第28号、その他(1)について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、11月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第28号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 11月の定例会議の日程：平成29年11月15日(水) 16:00～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第27号 平成30年度金沢市立小・中学校における教育課程編成・実施の基本方針(案)について(学校指導課)

(説明の概要) まず基本方針の位置付けについて、別冊資料1ページで説明する。本市では、金沢市立の全小・中学校において、「何を学ぶか」という内容として平成28年度に「金沢型教育モデル」の中の「金沢型学習プログラム」を策定した。「金沢型学習プログラム」とは、各教科や道徳、人権、健康教育の年間指導計画例を示した「金沢ベーシックカリキュラム」「金沢ふるさと学習」「金沢『絆』活動」の三つの内容を示したものである。

今から説明する基本方針は、各学校において「金沢型学習プログラム」に基づく教育課程を編成したり実施したりするときの基本的な考え方や留意事項を定めたものである。また、平成32年度から完全実施される新学習指導要領に向けて、移行期間が次年度から始まるので、その期間の留意事項も別に項立てしている。新学習指導要領で示されている「社会に開かれた教育課程」についても意識している。

続いて、議案書2～3ページの概要版で説明する。詳しいことは別冊の方にあるので、併せて見ていただきたい。まず、「I 教育課程編成の基本的な考え方」を大きく5点示した。1の(1)は、各種調査結果や地域性を生かした特色ある編成をすることである。(2)は、小中一貫の視点を生かし、重点的な指導内容を位置付けることである。(3)～(5)は、先ほど説明した道徳、人権、健康教育の全体的な指導計画を作成することである。(3)道徳については、次年度から小学校で教科化されることから、「金沢ベーシックカリキュラム 特別の教科 道徳」を基準として作成することを明記している。大きな2と3については、先ほど説明した金沢型学習プログラムの二つの内容である、金沢ふるさと学習と金沢「絆」活動の推進について示している。4は、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育課程の編成が必要となる特別支援学級や通級指導教室における教育課程の編成について記載した。5は、社会に開かれた教育課程を特に意識した。信頼される学校づくりに向けた教育課程の編成のために、(1)では例えば公開授業を設定することなどを示し、(2)では学校評価結果を生かすこと、(3)では防災教育等で保護者や地域住民と連

携すること、(4)では地域の人材や施設を生かすことなどを記載している。

Ⅱは、「教育課程実施の基本的な考え方」を大きく4点示した。1の「量的な把握」というのは、標準となっている授業時数を下回らないように指導時数の管理を行うことである。「質的な把握」というのは、金沢型学習スタイルに基づいているかなどを週の計画案で把握することである。2～4は、先ほど説明した教育課程の編成内容が実施されているかどうかの把握についてである。

Ⅲは、具体的な留意事項である。ほぼ昨年度と同じ記載内容だが、特に5の(4)に、土曜授業や週休日を活用した授業を実施する際の留意点を新たに明示している。

Ⅳは新学習指導要領移行期(平成30～31年度)における留意事項を示している。授業時数の主な変更点としては、小学校5、6年の英語科の授業時数は現在47単位時間だが、移行期は50単位時間となる。また、小学校3、4年の総合的な学習の時間の時数が35単位時間から38単位時間となる。それぞれの詳細については、先ほどの別冊に記載してある。

この案を認めていただければ、各学校に通知し、各校の校長がこの基本方針に基づき、次年度の教育課程を学校の実情に応じて編成することになる。

田邊委員

学習指導要領が改訂されるので、それに向けてのメッセージを盛り込む必要があると思っています。冒頭にあった基本方針の『社会に開かれた教育課程』の実現を目指し『カリキュラム・マネジメント』を促進するというフレーズ自体が新学習指導要領で強調したいことだと思いますが、今回の基本方針の文言の中には直接使っていません。大事だというメッセージをより強調するためには、例えば基本的な考え方の「5 信頼される学校づくりに向けた教育課程の編成」が一番フィットすると思います。そのことをあえて強調すれば、「社会に開かれた教育課程」にしっかりと取り組んでいただけるし、ベーシックカリキュラムで各教科がそれぞれ冊子にされていく中で、同時に教科を横断するようなカリキュラム・マネジメントをしっかりさせることが新学習指導要領で強調したいキーワードだと思います。そういうキーワードを入れ込むことも意識できるといいと思いますが、そのあたりを方針の中に盛り込むことはいかがでしょうか。

新村学校指導課長

別冊をご覧くださいと思います。まず1ページの前文に、『社会に開かれた教育課程』の実現を目指し」ということで、大前提として入れました。この意味合いについては、その前の部分に「よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を作るという目標を学校と社会が共有し」、「子供たちが自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力を明確にしながら」、「地域・家庭との連携・協働によりその実現を図っていく」という3点が、「社会に開かれた教育課程」になるということを示しています。そして、3ページの「5 信頼される学校づくりに向けた教育課程の編成」にも、一番当てはまる箇所として、2行目に『社会に開かれた教育課程』を編成していくことが必要となる」という文言を入れました。それで伝わると考えています。

田邊委員

先生方のご理解されると思いますので、十分伝わると思います。

新村学校指導課長

先ほど、「移行期は平成31年度も」という話をしましたが、今示したのは平成30年度のもので、平成31年度はまた調整があります。

山田教育次長

新学習指導要領は平成32年度からになります。今回は、平成30年度の教育課程の前触れという形で少し触れていますが、来年度はこのあたりをもう少し重視した形の教育課程を作っていきたいと考えています。

田邊委員

分かりました。あくまでも移行期段階ということで、了解しました。

野口教育長 | 移行期であり、意識はしているということですね。

○ 報告第 25 号 平成 30 年度金沢市立工業高等学校全日制の課程第 1 学年入学者募集要項について（市立工業高等学校事務局）

（説明の概要）議案書 6 ページ。平成 30 年度の入学者募集要項の内容については、平成 29 年度と変更はない。出願資格は平成 30 年 3 月に中学校を卒業見込みで、石川県内に居住する者、または入学までに県内に居住することになる者を対象とする。募集定員は昨年度と同数で、機械科 80 人、電気、電子情報、建築、土木科が各 40 人で、合計 240 人である。

入学願書の受付は平成 30 年 2 月 15 日（木）から 20 日（火）までである。学力検査は 3 月 6 日（火）および 7 日（水）の両日に実施する。

学科別合格者の発表は 3 月 14 日（水）正午に行う予定である。推薦入学の募集人員は、募集定員 240 名の 25% とし、昨年度と同様、5 科 60 名とする。推薦入学の出願期間は平成 30 年 1 月 30 日（火）から 2 月 1 日（木）まで。面接は 2 月 6 日（火）。合格の内定は 2 月 13 日（火）に各中学校長を通じて本人に通知する予定である。合格者は 3 月 14 日（水）正午に、一般入学者の合格者とともに発表する予定である。

なお、この募集要項については、石川県教育委員会が本年 5 月 30 日に発表した平成 30 年度石川県公立学校入学者選抜方針に基づき、出願資格、出願手続き、入学者の選抜方針や日程などを定めたもので、県立高等学校と同様のものとなっている。

| （特になし）

○ 報告第 26 号 金沢市と国立天文台との連携協定締結について（生涯学習課）

（説明の概要）議案書 12 ページ。青少年の夢と希望を育む宇宙教育の推進を目指すため、本年 2 月に策定した「金沢市宇宙教育推進計画」に基づき、このたび国立天文台と天文学の普及啓発及び教育活動に関する連携協定を締結する運びとなった。

締結式の日時は、平成 29 年 11 月 26 日（日）13 時 30 分から 16 時まで、場所は金沢市立工業高等学校メディアホールである。内容は、山野市長と林正彦国立天文台長による協定締結式の後、国立天文台の渡部潤一副台長が「宇宙の中の地球」と題して記念講演にご登壇いただく。記念講演の後、参加者にいっそう身近に宇宙や星に興味を持っていただくため、渡部副台長とプラネタリウム製作の第一人者である大平貴之氏、野口教育長の 3 人で、「星の楽しみ方」をテーマに座談会を開催する。なお、渡部副台長はキゴ山ふれあい研修センター天文学習棟の名誉館長でもあり、大平氏はキゴ山で今年度リニューアルを予定している新しいプラネタリウムの製作を手掛けられている。

協定の目的は、天文台が広く市民に、研究現場で得た知見の普及や学習の場の提供を行い、科学文化に対する市民の学習意欲を喚起するとともに、その発展に貢献する人材を育成することである。共同事業としては、学校の児童生徒への学習を支援する学校教育支援事業、教職員や社会教育活動の指導者等の研修支援事業、広く市民へ天文学に関する学習機会を提供する生涯学習支援事業、金沢市と国立天文台双方の専門家や研究者等が相互に交流する事業を進めていく。

今後の予定としては、本協定の内容を具現化するため、天文教育のプログラムの共同開発や小中学校の天文学教室への講師の派遣の他、天文分野の授業力向上のための教員研修、金沢宇宙塾生を対象とした天文学学習会の開催などを、共同事業として国立天文台と検討を進めていく。

なお、この協定締結式および一連の講演等の参加対象は、宇宙や科学に興味を持ち、キゴ山天体観察センターを拠点に活動している金沢宇宙塾の中高校生、そして日本宇宙少年団金沢支部の皆さんを含めた一般市民の方にもお越しいただきたいと考えている。

田邊委員 | 今後の予定の中に、天文教育プログラムを開発していくと記述されてい

ますが、このプログラムは児童生徒対象のカリキュラムであると同時に、大人向けも予定されるのですか。

藤木生涯学習課長

「天文教育プログラム（カリキュラム）」という書き方をしていますが、この共同開発の対象者は小中学生だけではなく、さまざまな年代の方々にも広めていくことを想定しています。

田邊委員

プラネタリウムが刷新されるので、その活用を考えれば、幅広く対象者が想定され、プログラムが検討されればいいと思いました。

野口教育長

プラネタリウムの話が出ましたが、大平さんがいらっしゃることにに関して、何かされることはありますか。

藤木生涯学習課長

11月26日には、大平さんがお越しになって座談会を行うことになっています。このお話の中で、プラネタリウム製作時の工夫された話、あるいはリニューアルの際のとおきのお話をさせていただく予定です。演出の中でもお楽しみがあると聞いていますので、ぜひたくさんの方にお越しただいただければと思っています。

野口教育長

プラネタリウムには、星を映す中に恒星原板というものが入っています。恒星を原板に打ち込んで、その下から光を当てて映し出すのですが、アナログのプラネタリウムは、基本的に6,700個程度の恒星しか映すことができません。大平さんは、もっと宇宙に近い映像を映したいということで、それまで肉眼で作っていた恒星原板を、顕微鏡でさらに細かい星を映し取って、約500万個の恒星を映し出すことができるプラネタリウムを初めて作られた方です。すごくいいものになるだろうと思っています。委員の方々も、お時間があればお越しただいただければと思います。

○ 報告第27号 第12回ジュニアかなざわ検定実施報告について（生涯学習課）

（説明の概要）議案書14ページ。第12回ジュニアかなざわ検定を本年8月23日（水）の午前中、45分間で実施した。会場は個人受検が教育プラザ富樫、団体受検は市立小学校54校、中学校16校の計70カ所で行った。対象者は小学4～6年生、中学生、希望する保護者という構成で、検定は小学生版と中学生版に分けて実施した。申込者数は全体で7,382名で、昨年よりも1%減少、受検者数は全体で6,750名となり、昨年よりも0.3%減少したが、いずれも過去最高の昨年度に次ぐ高水準だった。また、受検率は91.4%だった。

100点満点の方をジュニアかなざわ博士に認定しているが、本年度は小学生で3名誕生し、小学生からは5年連続の誕生となる。中学生は残念ながら、100点満点は誕生しなかった。平均点は小学生が55.5点、中学生が44.8点である。70点以上の方にゴールド、シルバー、ブロンズのカードをそれぞれの点数に応じて送っているが、カード取得率は小学生が23.3%、中学生が4.5%で、カード取得者等の内訳はご覧のとおりである。

表彰式は11月30日（木）に市役所で行う予定で、小学生版ではジュニアかなざわ博士の泉小学校5年の村井志優さんと中川晴賀さん、明成小学校5年の武川桜太朗さん、中学生版では最優秀賞が96点の港中学校1年の山本直さんが、市長から表彰される予定である。また、昨年度より新設した団体受検の最優秀受検校の表彰では、小学生版が中村町小学校、中学生版が芝原中学校で、個人に合わせて表彰が行われることになっている。来年度に向けて、さらに検定の周知を図っていきたい。

河野委員

学力検査とは別だと思いますが、配慮の必要な子どもへの配慮事項はありますか。もしなければ、入れていただきたいという要望です。

藤木生涯学習課長	受検に係る配慮事項については、ほとんどの方が団体受検で、学校を通して申し込みいただいているので、その時点でそういう情報を頂くようにしています。また、個人受検の際も、担当の方で丁寧にお聞きし、受検会場の案内やそれ以外の部分について配慮が必要な場合は、把握するようにしています。
野口教育長	小学生のジュニアかなざわ博士は3人ですが、過去こんなに多かったことはあるのでしょうか。
藤木生涯学習課長	今回が最多タイ記録だったと記憶しています。
野口教育長	教育長を拝命してから、小学生3人がジュニア博士というのは初めてだと思います。ふるさと教育がだんだん生きてきたのかなと感じています。これを契機に来年も増えたらいいと思います。
田邊委員	中学生と小学生を比べると、中学生は平均点、カード取得率にしても少し低いのですが、内容がレベルアップされているので、ハードルが高いということなのではないでしょうか。そのあたりの理由を把握していたら教えてください。
藤木生涯学習課長	ご指摘のとおり、実際に問題を確認してみると、中学生版は大人に対する設問かと思うほど難しい問題もあります。ですので、100点満点は難しいかもしれませんが、教材として紹介しているものや最近の報道等、気を付けてご覧いただければ答えられるレベルをキープしていると、問題作成担当の皆さんも信じているところです。
鳥倉生涯学習部長	補足しますと、小学生は高学年の5～6年生に満遍なく受検していただいているのですが、中学生は1年生が主体となっています。本来なら2、3年生も受検していただきたいのですが、部活動などそれぞれの活動もあります。継続的に受検していただければ、問題の程度とは別に、もう少し点数は高くなると思うので、引き続き2、3年生にも受検していただけるように働き掛けていきたいと思っています。
田邊委員	過去の記録を見ると、10回目のときに中学3年生が博士を取っています。2、3年生が受検しづらい環境であるとすれば、それは致し方ない面もあるかもしれませんが、2、3年生にもたくさん受検していただければ、レベルの高い結果が残るといった気もしますので、働き掛けていただければと思います。
鳥倉生涯学習部長	実行委員会の中でも委員からそういうご発言があったので、ぜひその辺を踏まえて来年以降、改良を検討していきたいと思っています。
河野委員	保護者の方はカードをもらえるのですか。
藤木生涯学習課長	保護者の方は、お子さんと一緒にふるさと学について勉強し、受検も一緒にしていただいております。今のところ対象としては考えていません。
野口教育長	保護者の方はジュニアを勉強していただき、金沢検定につなげていただければと思っています。

○ 報告第28号 重要文化財の指定の答申について（文化財保護課）

（説明の概要）別添資料。10月20日、国の文化審議会は、旧石川県第二中学校本館を国の重要

文化財に指定するよう答申した。既に報道発表されたが、改めて報告する。名称は旧石川県第二中学校本館。所在地は飛梅町。構造形式は木造2階建、附として設計図面3枚。所有者は金沢市。特徴としては、明治32年(1899年)に建設された洋風木造建築であり、当時の設計図面から、竣工当初の形式を良好にとどめていることや、設計者が石川県技師の山口孝吉であることが確認されている。外観は、窓周りを下見板張、その下部を堅板張、上げ下げ窓を並べ、屋根には随所に切妻屋根の小窓を設けるなど、全体的に洋風意匠となっている。また、正面中央の屋根には、前面に三角形を強調した意匠がとられ、両翼部の内側に尖塔を設け、このような外観が校舎の愛称であった「三尖塔」の由来とされている。

本例は、明治中期に改正された中学校令に基づき設置された中学校校舎の初期の遺例であり、当時の設計指針を踏まえつつも、尖塔や切妻屋根の小窓、車寄に施される透彫等に独創性が見られ、近代の学校建築の発展過程を知る上で高い価値を有していると評価された。

田邊委員	旧中学校の建築例としてはかなり特徴的だと思いますが、同じような例は全国にどれくらいあるのでしょうか。
飯田文化財保護課長	旧制中学校で重要文化財になっているのは、福島県の旧福島県尋常中学校本館、茨城県の旧土浦中学校本館、岡山県の旧岡山県津山中学校本館の三つであり、本例で4例目となります。
野口教育長	意外と少ないですね。
田邊委員	なかなか残っていないと思います。
河野委員	現在、どういう使われ方をしているのでしょうか。
飯田文化財保護課長	現在は「金沢くらしの博物館」となっています。一般拝観料は300円、団体は250円、65歳以上は200円、障害者手帳をお持ちの方は200円、高校生以下は無料で、基本的には年中無休、お休みは年末年始、展示替えの期間だけになっています。

○ その他(1) 平成29年度海外教育派遣研修「大連教育研修」の報告について

(説明の概要) 議案書16ページ。今月7～11日の5日間、山田教育次長を団長として中国大連市へ教育派遣研修が行われた。この研修は、世界の交流拠点都市金沢の具現化に向けて、本市小・中学校の教員を友好交流都市である中国大連市へ派遣し、教育現場の視察や教育関係者等との懇談・交流を通して友好を深めるとともに、教員自身の国際感覚を磨き、指導力を向上させることにより、国際感覚豊かな人材の育成を図ることを目的としている。大連への教育派遣研修は今年で14回目となる。

今年度は小・中学校の中堅教員3名に加え、訪問先である大連市実験小学校と友好交流協定を結んでいる金沢市立明成小学校の嶋崎校長が副団長として参加した。また、市立工業高校と友好交流協定を締結している大連市技師学院を訪問するため、市立工業高校の教員2名も参加した。訪問先は、大連市実験小学校、第三十七中学校、大連市技師学院、大連教育学院、大連大学で、授業等を視察するとともに、各学校の先生方や生徒とも意見交換を行ってきた。研修の最終日には、北陸銀行の協力の下、保護者の方が中心になるが、日系企業の従業員との懇談も行った。

派遣団員は、山田教育次長と嶋崎校長、小中高の教員5名、教育プラザの研修相談センターの指導主事の合計8名である。実験小学校、第三十七中学校には嶋崎校長以下、小中学校の教員が訪問し、山田教育次長は市立工業高校の教員2名とともに大連市技師学院を訪問した。

大連市技師学院の視察について報告する。大連市技師学院は大連市の労働局が所管する実業系の高等学校で、基本的には15～19歳の学生が在籍している。3～4学年制で、学生数は約3,000

人である。大学に工場を併設しており、大学内に大きな工場が何棟かあるというイメージである。実習の機械設備等が充実しており、いわゆる実習などの技術的な指導においては、日本の実業高校よりはやや進んでいる印象を受けた。ほぼ全員が就職し、卒業生には国から高級技師証明という資格が交付される。多くが外資系企業に就職している。市立工業高校でも在学中の生徒の資格取得を支援しているが、さらなる就職に向けた支援の必要性を感じた。

また、大連市教育局、教育学院、大連大学の幹部の方々と懇談し、教育を含むさまざまな分野で大連市と金沢市の友好交流が盛んに行われていることを目の当たりにした。今回の研修にご協力いただいた日本海国際交流センターや、大連中日教育文化交流協会など大連市側の関係者の皆さまのこれまでの尽力、努力に感服した。改めて交流、相互理解の重要性を認識した。

研修に参加した先生方は、実際目で見えてきた中国、大連の様子をぜひ子どもたちに伝えていただきたいと思っている。それを伝えることで、国際交流の大切さや他国を尊重する姿勢など、国際感覚を備えた人材の育成にご尽力いただけるのではないかと考えている。今後については、校長会議や初任者研修などで研修報告を行うことにしている。

大連実験小学校、第三十七中学校について報告する。大連実験小学校では4年生の英語科を見学した。学習内容、質ともにレベルの高い授業で、児童と教師が全て英語で授業をしていた。また、大型スクリーン、パソコン等、ICTが活用された授業であり、教師はテキストをタッチペンで操作すると音声流れ、机間指導をしながら大型スクリーンの映像を操作できるようになっていた。そのため、テンポよく効率的に指導されており、児童も積極的に学んでいた。プログラミング教育についても取り組んでおり、あるクラスでは児童一人一人が進行方向や進む距離をプログラムした自動車を作っていた。ICTの活用やプログラミング教育の点で見ると多かった。また、伝統文化や芸術にも力を入れており、校舎の至るところに児童の作品が飾られていた。切り絵や水墨画など、地域の著名な方が指導されているとのことだった。地域人材の活用については、スポーツの面でも盛んで、体育館では保護者が卓球を指導していたり、元フェンシングの国体選手が指導したりしていた。地域の特色をカリキュラムに生かすことは金沢ふるさと学習に共通する部分でもあるが、地域人材の活用が日常的にカリキュラムに組み込まれていた点は進んでいると感じた。

第三十七中学校では、最初に案内された体育館で体操部男女の生徒がエアロビクスダンスを披露してくれた。第三十七中学校でもスポーツや芸術に力を入れており、特に芸術分野が学校の特色の一つだそう。その後、校長先生の案内で校内を視察したが、教材研究を行うための研修室では、5名の教師がテーブルを囲んで教材研究を行っていた。また、授業研究を行うための教室もあり、ここでは授業を分析するためにビデオカメラが複数台設置されていた。授業のビデオを教師の指導力向上や業績評価に活用しているとのことだった。また、優れた授業を録画して、若手教師の手本にしていた。これは金沢型学習スタイルの映像資料と共通していると思うが、学校で日常的に授業をビデオ撮影し、指導力向上に役立てている点は素晴らしいと感じた。

教職員との懇談では、やはり研修が議題になった。授業よりも授業前の教材研究が大事であるという校長先生の方針の下、第三十七中学校では週3回、他の教員に授業を見てもらえる機会があり、誰がどの授業を参観したのかをデータで記録しているとのことだった。教員相互による研修の仕組みが確立されており、とても参考になった。今回の研修では授業を参観するだけでなく、校長先生をはじめとした教職員と、教育課程や研修について話し合うことができ、とても有意義だった。また、教育環境もICT、授業研究室など進んだものを参観できた。

さらに、児童生徒がわれわれをととても温かく迎えてくれた。そんな彼らを見て、国際感覚を磨き、他国を尊重するには、まず自国の伝統や文化をしっかりと理解した上で他国の文化を受け入れることと、コミュニケーションを図ろうとする積極性が重要だと感じた。中国の児童生徒は、競争の中に生きている。これは教師も同じである。私たちも負けずに切磋琢磨していきたいと感じている。

大島委員	<p>実は私も明成小学校の育友会をしていたので、過去に教職員の方から実験小学校のお話を聞く機会があり、子どもたちのモチベーションなどで私も非常に感銘を受けた覚えがあります。最後に研修報告として、連絡協議会や研修等で報告されるとのことですが、このあたりをしっかりと共有していただきたいと思います。交流という形で大連から金沢に来ることはあるのでしょうか。</p>
高村教育プラザ総括施設長	<p>今回は派遣研修になりますが、大連からは今年8月初めに、大連海洋大学から日本語を専攻している先生方を迎え、教育プラザなど施設をはじめとした説明をしました。</p>
野口教育長	<p>補足すると、今年はたまたま8月だったため、学校をなかなか参観できなかったのですが、学校の授業が行われている時期の訪問の時には学校も訪問されます。</p>
田邊委員	<p>二つ伺います。一つは、中学校を訪問された際に日本語教育の授業を参観されたとのことですが、その感想や印象を聞かせてください。 もう一つは、大学を訪問された際に大学生と交流されたとのことですが、大学生はどんなことに感心を持っていたか、意見交換の概要をご報告いただければと思います。</p>
嶋崎明成小学校長	<p>中学校での日本語教育については、先ほどお話ししたようにICTを活用してオール日本語の授業でした。どの生徒も意欲的に日本語について学びたいという気持ちが出ていて、とてもいい授業だったと思います。</p>
田邊委員	<p>日本語の授業は必修ですか、選択ですか。</p>
嶋崎明成小学校長	<p>その学校では必修になっていました。</p>
山田教育次長	<p>大連大学では日本語言語文化学院に、日本語を勉強している学科の先生方と学生が25人ほどいたと思います。基本的には皆さん日本語が話せるので、日本語で交流しました。向こうの先生方の配慮で、学生に「聞きたいことはないですか」と言ってくれたのですが、学生は意外と内気で、あまり質問はありませんでしたが、「日本では、何を見てきたらいいですか」という質問を頂き、「伝統文化が息づく金沢にも来てほしい」ということをお話ししました。こちらからは、「なぜ日本語を学びたいと思ったのか」「日本語を使ってどういうことをしたいのか」と聞いたのですが、大連には日系企業がかなり進出しているので、日本語が就職に大きく有利になる面が多いということでした。</p>
田邊委員	<p>特に、中国からの留学希望がとて多く、「こんなテーマで研究したいので、受け入れてくれないか」という要望が本当にたくさん来ます。出会った大学生も、日本に来たいから日本語の学習をより深めたいということが背景にあるのかなと思います。そういうニーズが切実に感じられたのでしょうか。</p>
山田教育次長	<p>大連は日本との交流が盛んで、大連大学は中国国内でも日本語教育でかなり上位にある大学だそうです。語学としての日本語を学べる環境があり、学生もかなり多くいるので、その分、大学も非常に力を入れているのだと思います。日本に留学したいという学生も恐らく多くいると思いますが、日本語を学んで今後のキャリアにつなげていきたいという学生が多いように感じました。</p>

田邊委員

小中学校を訪問した際に先生方と交流されたと思いますが、生徒との交流はありましたか。授業の妨げにならないような配慮は必要と思いますが、特定の空き時間を設定して、生徒とディスカッションする機会があれば、生徒にとっても関心を深める機会になると思います。ましてや、必修で日本語を学んでいるとお聞きしたので、そういう機会もあればと思います。

嶋崎明成小学校長

残念ながら、子どもとの交流の時間は設定されていませんでしたが、日本語をととても積極的に学んでいましたし、私たちが行くと熱烈歓迎してくれたので、とてもよかったという感想を頂きました。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名

教 育 委 員 _____ 署 名

(河野委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第 28 号 金沢市文化財保護審議会への諮問について（文化財保護課）

審議結果についても非公開

以 上